

NEXCO東日本の技術拠点

現在、管轄する道路延長は約4000km。この長距離区間を安全な状態に保つため、NEXCO東日本は「技術者の育成」「エキスパート支援」「研究・技術開発」「安全教育・啓発」という4本柱を打ち出した。これを具現化するために誕生したのが、NEXCO東日本総合技術センターだ。「高速道路のメンテナンス時代に対応すべく設立されたものです」

歴史を辿り未来を見据える

「技術者の育成」ではキャリアに応じた研修を行う。センター内にはトンネルの構造模型や実際の材料、被災地から運ばれた損傷した橋梁部材などが並び、研修に活用される。「技術は進化していますが、現場には30年以上前に造られたものもある。それらに対応するために若い世代にも古いものを体感してほしい。VRを使った疑似体験も実施しています」

技術部門の専門家が集結していることから、「エキスパート支援」にも期待が高まる。例えば災害対応だ。「インフラである高速道路は、素早く復旧しなければなりません。その技術支援を担う拠点でもあるんです」

守りたいのは高速道路の安全

NEXCO東日本が管轄する高速道路は、その約7割が冬になると雪が降る。雪水対策は重要課題で、「研究・技術開発」でも注力するテーマだ。「腐食促進試験機で錆に強い材料を試し、マイナス30度から70度まで設定できる低温恒湿試験機で冬の道路を再現する。雪氷技術研究はやることが多いんです」

この部門では、多岐にわたる研究が系統立てて進められているという。「安全教育・啓発」は工事中事故

の防止だけでなく、作業スタッフを危険から守るためのものでもある。センター内には本物の足場が組み立てられ、作業研修も可能だ。

このようにしてNEXCO東日本が掲げた4つの柱を、より太いものにしていく設備がそろった総合技術センター。その将来性について本間センター長は、「ここに集まった情報がエンジニアによって有機的につながり、そして新たに発信されていく。そんな施設に育てたい」と語る。その根底にあるのは、高速道路の安全を守り続けたいという、強い思いだ。



ハイウェイを支える人々

Vol. 53

高速道路の裏側に潜入

NEXCO東日本が新設した技術開発と育成の拠点・総合技術センター。巨大な施設の中には高速道路の安全に関わる“過去”と“未来”がたくさん詰まっていた。



東日本高速道路株式会社
技術本部 総合技術センター長
本間 淳史さん



1. 一般の方々に高速道路事業を理解して頂くための展示
2. リニューアル工事で撤去した橋梁など実物で学ぶ経験は貴重
3. 腐食促進試験機では凍結防止剤に強い材料などを研究
4. 在籍する高度専門家が現地の技術的課題などをサポート